

直木賞作家の詩人が特別参加

文化人・ねじめ正一が詩の魅力を伝えます

18日、杉並第七小学校（阿佐谷南3丁目19番2号）で、日本を代表する詩人、ねじめ正一さんが、同校4年生の児童49人を対象に詩の魅力を伝える授業に特別講師として参加しました。今回の授業は、区が企画したもので、詩人として数多くの心に残る詩を手掛けてきたねじめさんを講師として招き、詩に触れることが少ない子供達へ詩の魅力や詩を書くことの楽しさを伝えることを目的としています。

杉並区には、美術・文学・音楽など、その道の第一線で活躍する「文化人」が数多くいます。ねじめ正一さんもその1人です。ねじめさんは、平成元年、自らの少年時代をもとにした小説「高円寺純情商店街」で直木賞、平成20年には「荒地の恋」で中央公論文芸賞を受賞するなど、杉並区そして日本を代表する詩人・小説家です。

区は、杉並区にゆかりのある文化人を紹介するアーカイブ映像集を製作しており、そこへねじめさんに出演してもらったことが縁で、詩の魅力や楽しさを子供達に伝えてもらおうと、今回の授業を企画しました。



杉並第七小学校の4年生を前にねじめさんの授業が始まりました。テーマは、「〇の木」です。ねじめさんは、子供達に思いつくオリジナルの「木」を連想させました。すると次々と手が挙がり、子供達が「ケーキの木」や「動物の木」など思い思いのユニークな「木」を答えると、ねじめさんはどの答えに対しても決して否定することなく、1つ1つ丁寧にコメントを返していました。ねじめさんは、「詩を通じてそれぞれの表現から、多様な個性を認め合うことが大切だから」と話します。また、ねじめさんは幼少のころに嫌だった店番のことを詩に書いたことが、詩を書くきっかけになったエピソードを紹介し、どのようなことでも詩にできるという、詩の楽しみ方を伝えました。

子供達は、今回の授業でねじめさんから出された詩を考える宿題を、1月23日に同校で行われる土曜授業「詩のボクシング」で披露し、拍手で勝敗を競います。授業に参加していたある男の子は「がんばるぞー」と詩を作ることに意気込んでいました。

【報道機関 問い合わせ先】

文化・交流課 電話 03-3312-2111

総務部広報課 電話 03-3312-2111